

## みことばの本質(マルコ 12:28-34)

サマリアの女の人がイエス様と出会って、今まで大事にしていた水瓶を捨て、町に出てイエス様をおあかししました。誰もがこの女の人はダメだと思っていたのに、イエス様と出会ってその女性は変わったわけです。このようにイエス様と出会うと、私たち、また人生そのものが変わるのが当然なのです。しかし、残念ながら教会には通っていますが、このように変わる人となかなか変わらない人がいるわけです。霊的に成長する信者、なかなか変わらない信者、その違いは一体何でしょうか。

今日の聖書の箇所を見ますと、律法学者の一人が、パリサイ人、あるいはサドカイ人等がイエス様に質問をぶつけて議論している内容を聞きながら、イエス様が見事に答えていらっしゃることに感服しました。それでイエス様に本格的な質問をすることになります。「神様の命令、つまり戒めの中で、神のみことばの中で一番大事なものは何でしょうか」と聞きました。神様のみことばは数多くあります。しかし、それに対してイエス様は、神を愛して、隣人を自分のように愛すること、これこそが一番大きな命令であり、これこそが神のみことばなんだと、みことばの本質が何かについてお話をされました。それを律法学者が聞いていました。律法を教える学者ですがイエス様のお話に恵まれて、そのとおりですと答えます。そして、神を愛して、隣人を愛すること、つまり、みことばの本質そのものがいけにえを捧げることより大事なものと話をしました。それを聞いていたイエス様、その答えを聞いて、この人が見事に答えているということを見て、「あなたは神の国から遠くない」と祝福された内容が書かれています。神のみことばの本質が何か分かっているか、そうじゃないかが、教会に通っていたながらもその人が成長して行くのか、あるいは、なかなか変わらないまま迷い続けるのかのキーポイントになるわけです。なのでイエス様が神のみことばの本質を語られたときに、見事に恵まれた律法学者に向かって「神の国はあなたから遠くない」とおっしゃっていました。この内容を通して今日礼拝を捧げているレムナント教会の信徒の私たちは、神様のこのようなメッセージを心にしっかり留めていきたいと思えます。

### 1. みことばの本質が分かれば、人生の重荷を下ろすことができる。

その第一が何かと言いますと、みことばの本質が何か分かれば、人生の重荷を下ろすことができるようになります。言葉を変えますと、教会に通っていてもみことばの本質が分かっていると重荷を背負ったままの状態になってしまうということでしょう。聖書は神のみことばです。みことばには十戒をはじめ、数多くの内容があります。しかし、そのすべてのみことばの本質は一体何でしょうか。

#### 1) 御言葉の本質-いのち、キリスト、愛

創世記 3:15、エゼキエル 37:4-5、ヨハネ 3:16-17、ヨハネ 1:14

一言で申し上げると、それはいのちなのです。神様が私たちにみことばを与えられた理由は、いのちを得させるためです。つまり、罪人の私たちが救われるために与えられたものが神のみことばなのです。これが本質です。神を離れて悪魔サタンの奴隷となっていた人々が救われて、神の祝福の子どもになるために許されているものが神のみことばなのです。死んでいるたましいを生かすこと、それがみことばの本質なのです。創世記 3:15 を見ますと、罪を犯して滅びるしかないアダムとエバに向かって、女の子孫が生まれて蛇の頭を踏み砕いて、それであなたがたは助かるようになるよ。その滅びの死から救われることができるよとおっしゃいました。ここからみことばがスタートすることになりました。それで旧約のエゼキエル 37:4-5 を見ますと、「主は私に仰せられた。「これらの骨に預言して言え。干からびた骨よ。主のことばを聞け。神である主はこれらの骨にこう仰せられる。見よ。わたしがおまえたちの中に息を吹き入れるので、おまえたちは生き返る」。神のみことばを預言せよ。そうすると骨のように死んでいたたましいが生き返るようになるよ。これがみことばなのです。これがみことばが与えられた本当の理由であり、みことばの本質というものなのです。ヨハネ 3:16-17 にもそう書いてあります。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」とおっしゃいました。それから、わたしが来たのは、この世をさばくためではなくて、この世を救うために来たんだとおっしゃいました。これがみことばの本質なのです。さまざまなみことばがいろいろな場面

でいろいろな経緯を通して許されます。そして、それが記録されることになりましたが、そのみことばの本質はこのように死んでいるたましいがダメになって滅びるしかない人が助かり救われて生かされるようになるということのために許されているものなのです。なので言葉を変えますと、みことばはキリストなのです。そのためにキリストが来られて、悪魔の頭を踏み砕いですべての罪を贖い、神と会うための道となりました。それでヨハネ1:14には、みことばは人となってと言われるわけです。だから、みことばの本質はいのちであり、みことばの本質はキリストそのものなのです。これをもし逃してしまうとパリサイのような結果を見ることになります。なので言葉を変えますと、今日イエス様が律法学者に語られたようにみことばの本質はいのちであり、だからこそキリストであり、なのでこのキリストのゆえに神を愛すること、このキリストのゆえに隣人を自分自身のように愛すること、それこそがみことばの本質なのです。この愛というものは、私たちがイメージしてる愛情のようなその軽々しい内容ではありません。キリストを送られたその神の愛を素直に受け入れて感謝すること、そのキリストを信じるからこそが神様を愛することなのです。そしてそのキリストの愛のゆえにキリストの愛が必要だということが分かるので、隣の人々を愛することになります。キリスト、いのち、それこそが神のみことばの本質なのです。それでヨハネ5:42を見ますと、イエス様がパリサイ人に向かってこのようにおっしゃっています。「ただ、わたしはあなたがたを知っています。あなたがたのうちには、神の愛がありません」。みことばを徹底的に命がけで守っているにもかかわらず、その内側に神様を愛する愛が見られないのです。それがイスラエル、またパリサイ人の失敗なのです。なぜ何でしょうか。

## 2) みことばの本質を逃すと重荷になる-律法、宗教、行い、さばきと落胆の沼

みことばの本質を逃しているからです。自分は自分なりに神のみことば、聖書をそのとおりに守り、徹底的に聖書を守るために命をかけてるつもりでしょうけれども、みことばの本質が分かっていないとそれが自分自身を滅ぼすことになるということを肝に銘じないといけません。神のみことばの本質は人を生かすことです。みな滅びるしかない、生まれながら神の御怒りを受けるしかない存在なので、そこに神様がみことばを与えられました。キリストを与えられました。それはいのちを与えるためなのです。さばくためではありません。滅ぼすためでもありません。何かのものさしを作って引っ掛けるためではありません。正しいか正しくないかということの評価してさばくための材料ではありません。なのに神のみことばの本質が分かっていないと、教会に通っていながらも、そのような思いを背負ったままそこから自由になることはできません。みことばの本質を逃してしまうと重荷になるしかありません。神のみことばを持っていて、聖書を読んでいながら、神のみことばを守ろうとするのですが重荷になるしかありません。神のみことばは重荷ではありません。先ほど申し上げましたように、みことばの本質、いのちを生かすことを逃してしまうと、みことばそのものがものさしになって、合ってるか合っていないか、正しいか正しくないかを判別するだけになり、それを律法主義と言います。全部が聖書に書いてあるとおりであり、神のみことばそのものかもしれませんが、本質とはかけ離れている、遠く離れているものなのです。今簡単に聞いていらっしゃるかもしれませんが、教会の中でこれがいまだに行き来しているわけです。なぜ何でしょうか。みことば、みことばと言いながら、聖書、聖書と言いながら、その本質が何か分かっていないと仕方がなくこうなるしかないのです。それでみことばを握っていながらも、そのみことばの本質、中身そのものが欠けたまま、形式、形だけにこだわることになります。それを宗教と言います。みことばの本質を逃してしまうと、教会に通っていったながら、自分なりに信仰生活していながらも、宗教になるしかないのです。その律法と宗教の重荷を背負って歩くしかありません。それでみことばの本質を逃してしまうと、行いそのものが基準になって、それによって幸せと祝福が左右されるかのように因果応報の法則の重荷を背負ったまま教会生活をするようになります。いつも行いによって振り回されることになります。その結果、自分もダメになり、ほかの人もダメにしてしまいます。聖書を持っていてみことばがよく分かっているからこそ、分かっていない人より陥りがちな罪なのです。みことばの本質を逃してしまうと。そうすると未信者やさまざまな悩みを抱えている人々が教会に来て、教会に長く居続けることができません。そのような律法の雰囲気、宗教的な雰囲気、因果応報的な雰囲気、そこにはさばきと落胆の沼に陥って、なかなかそこから抜け出すことができないようになってしまいます。みことばを持っていながら本質を逃してしまうとそのようになってしまいます。イスラエルの歴史がそういうものであり、特にパリサイ人たちは、後にイエス様がパリサイ人に対してそのように叱る場面が紹介されます。私個人的には小さい時から教会に通っていましたが、このようなみことばの本質とは全く関係ないものが強調されて、人々が重荷を背負ってつまづくことがしばしばあるということを見て教会生活をし

てきました。別に批判するつもりはありません。しかし、私たちは聖書を通してしっかりと改めないといけません。信者、自分自身が重荷を背負っているかどうかを吟味しないといけません。特にその重荷が何かの問題のための重荷というよりは、信仰生活を頑張ろうとして神のみことばを握って、そのみことばがそのような重荷になるということはなんと悲しい残念なことなんでしょうか。

### 3) みことばの本質の回復-(33)マタイ 11:28、ローマ 1:17

みことばの本質を回復しているという姿は今日の聖書に出てくるわけです。律法学者がいろいろな議論を見ながら、たぶん恵まれていたと思います。イエス様のおっしゃるとおりなんだと。それで自分の質問に対してイエス様がおっしゃることを聞いて、その人はみことばの本質が何かを見抜くことができたという場面です。それで神を愛して人を愛すること、つまりいのち、イエス・キリストこそがいけにえを捧げることよりはるかに優れたものですよとみことばの本質を見抜くようになったわけです。そのときにイエス様が「神の国はあなたから遠くないよ」と。旧約の聖書を見ますと、イスラエル人たちが神のみことばどおりにいけにえをたくさん捧げていました。日にちをしっかりと守っていました。それ自体は悪くありません。神のみことば通りなので。しかし、そのすべてに本質が抜けてしまったので、神様は「あなたがたが捧げるいけにえにわたしはもう飽きちゃったんだよ。臭くてしょうがないよ」という表現をしていらっしゃいます。神様が捧げなさいとおっしゃったのに、なぜ今さらそういうふうにおっしゃるんですかと思うかもしれません。神様が捧げなさいとおっしゃったそのみことばの本質は、いのち、キリストだったのに、それは抜けているわけです。だから生かすべきみことばが人を殺してしまうみことばに変わってしまいました。それが教会の歴史でもあるわけです。だから礼拝を捧げている皆さんは、神のみことばの本質をしっかりと掴んで回復するようにしましょう。だから、イエス様はこのみことばの本質を逃したまま重荷を背負っている、しかも答えが何か分かっていないまま、みことばを握って重荷を背負っている、それ以上、逃げる道がないのです。みことば以上、何もないので。最高のものを握っていて、それが重荷になってしまった場合には、逃げ道もありません。そういう人々に向かってイエス様がおっしゃいました。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」。パウロも言いました。ローマ 1:17「義人は信仰によって生きる」と。それにはものすごい自由が語られているものなのです。すべてのみことばの本質から離れて背負っていた重荷から自由になる宣言なのです。義人は信仰によって生きるよ。あなたがたがみことばどうのこうのと言って重荷になっているのは勘違いなんだよ。神様は私たちを天秤にかけるためにみことばを与えられたわけではありません。私たちはひとりとして例外なく滅びるしかない罪人だということをご存じの神様がみことばを与えられました。「よし、守るか、守らないか、見てみようじゃないか。守ってなかったな。お前はダメだ」。そういう意味で神様がみことばを与えられたわけではありません。だから、教会に通っていながらも神様を意地悪な方のようなイメージを持つ信者も少なくありません。みことば守ろうとすると矛盾だらけになってしまうので。みことばはどのような場面で、どういう内容であろうが、その本質はいのちなのです。生かすために、私たちを祝福するために与えられたものなのです。その本質を逃してはいけません。だから、キリストなのです。

## 2. みことばの本質が分かれば、いのちを味わい、証人となる。

そして、このようないのちである神のみことばの本質が分かれば、そのいのちを味わうことになり、その結果、ほかの人も生かす証人の道を歩くようになります。これがみことばの本質なのです。私たちは神の恵みによってイエス・キリストを受け入れ、また教会生活を始めました。にもかかわらず、私たちの中には神様のさまざまなご計画の中で古い人間がそのまま残って、また心の傷も抱えてさまざまな弱さを抱えています。別の言葉で申し上げると、違うものが刻印されているままの状態なのです。神様はそのすべてをご存知なのです。そこで神様がみことばを与えられます。それは「なんでお前はイエス様を信じているのにそうなのか」のためのものではありません。

### 1) 癒しのみことば-ヘブル 4:12、Ⅱコリント 10:4-5

みことばの本質が何か分かれば、みことばは救われた信者ひとりひとりを癒すために許されたものなんだということが分かるようになります。みことばの本質は信者を癒すことなのです。それでヘブル 4:12にはこう書いてあります。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます」。古きまま

の刻印を持って、信仰を持っているのにもかかわらず倒れるしかない私たちにみことばが与えられて癒すようになります。これがみことばの本質なのです。「何でお前はそうなのか」ではなくて癒すためのものなのです。Ⅱコリント 10：4-5「私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ」。このようなことのためにみことばが許されているわけです。これがみことばの本質というものであることをしっかりと心に覚えましょう。神のみことばに対しての間違った理解、イメージなど全部消して、新しく始めましょう。みことばの本質は私たちを癒す力なのです。そこにフォーカスを合わせないで別のところにフォーカス、ポイントを置いてしまうと、本質から離れることになるのです。

## 2) サミットのみことば-Ⅱコリント 3:16、エペソ 1:3、Ⅱコリント 5:17

そして、なぜそのように癒されるかと言いますと、そのように癒やすことによって私たちが今はキリスト・イエスのいのちによって全く新しい存在に作り変えられたということを確認して、喜んでもらうためにみことばが許されているわけです。それをサミットのみことばと言います。みことばは信じる私たちが人間的な条件、環境、状況などに関係なく、キリストによっていのちある一つの理由によってサミット、霊的サミットなんだということを知らせるために神様はみことばを許されました。これがみことばの本質なのです。でも、なぜなかなかそこに気づかないかと言いますと、癒されていないからです。違う刻印がまだまだ自分の内側で力を発揮して、その人の考えを動かしてるからです。だから神様はみことば与えられました。みことばの他にはその古き考え、刻印が取り替えられて癒される方法は無いからです。みことばによって古い考え方が変わり、自分を条件と環境、状況などによって評価していたその古い刻印を切り捨てて、キリストのいのちによって自分をしっかりと見つめ直すように。そのために方法はみことばの他にありません。だからみことばが与えられました。あなたがたは、聖霊が宿っている神の神殿であることが分かっていないのか。サミットなのです。この地上を歩きながら、ある時には死の影の谷を歩くような大変な目にあうときもありますが、あなたがたは神の神殿なんだ。この地上のものによって左右される存在ではないよ。神の聖霊が宿ってる神の神殿なのです。エペソ 1：3、だからこそ天にある霊的すべての祝福をいただいている祝福の存在、幸いな者なんだ。地上のものによってあなたの祝福と幸せは左右されません。もう神様とくっついているものなんだよ。それをサミットと言います。キリストとともによみがえらせ、キリストとともに天の御座に座らしてくださいと言われるものなのです。だからⅡコリント 5：17、だからこそ信者の私たちが、古いものは過ぎ去り、すべて新しくなったということに気づいてもらうために神様はみことばを与えられていらっしゃるわけです。これがみことばというものなのです。皆さんはみことばと向き合いながらどういうふうな向き合い方をしていращやるのでしょうか。重いな。どうしようといつもそういう感じなんですか。みことばに向き合うたびに生かされているのか。癒されて自分がどんな場合でもサミットなんだということを確認していращやるのでしょうか。どっちなんですか。もしかしたらみことばと向き合うこと自体が重く感じる方は、みことばを聞きたくなくなります。どんどんみことばから実際的には離れて行くようになります。礼拝には来るかもしれませんが。最終的には礼拝にも行きたくありません。礼拝のメインはみことばなのです。みことばが重いから、また守れなかったな...守るか守らないかももちろん大切なのですが、守るか守らないかが本質ではなくて、いのちそのものであり、だからこそ癒されないといけないし、サミットの身分を確信してそこからスタートするようにしましょう。これがみことばの本質です。

## 3) 御座の力を体験-詩篇 23:1、ペリピ 4:13、使徒 1:7-8>ペリピ 4:6、使徒 1:14

そこまで確認できたときに、弱さがありさまざまな環境があるにもかかわらず、御座の力を体験することになります。自分がサミットだという確信がないのに御座を見上げるということはありえないでしょう。地上のものがどうであれ、私は天にある祝福の存在なので御座にフォーカスがいくようになります。それがみことばの本質なのです。それで御座の力を体験してもらうために神はみことばを与えられました。詩篇 23：1、死の影の谷を歩きながらも「主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません」。ペリピ 4：13、刑務所の中で「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」。これが力なのです。植民地であり、迫害の状況であり、乞食のような人ばかり集まっている初代教会が、使徒 1：7-8、それはあなたがたは知らなくてもいいですよ。聖霊が臨まれると、地の果てにまで、イエスの証人となるよと。これこそが力なのです。この御座の祝福が、三位一体の神様が私とともにおられる、この祝福が私のものだという

ことが確認できるので、ピリピ 4:6 にあるように、「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい」。だから御座の祝福を見上げつつ祈るようになります。不安で誰かのせいにして不満を言うのではなくて、心配するのではなくて祈るようになります。そのために神のみことばが与えられました。使徒 1:14、だからこそ祈りに専念することになります。神のみことばの本質は、信者の私たちが癒されて、自分がサミットであることを確認して、だからこそ地上のものに振り回されなくて、どんな状況であろうが御座を見上げつつ、ならば残るのは祈りなのです。それを祈りと言うのです。必死になって自分の願望を訴えることが祈りではなくて、それが祈りなのです。そういう意味で祈ってもらうために神のみことばが許されているのです。これがみことばの本質です。

#### 4) みことばの本質を逃すと限界に苦しむ

信者なのにみことばの本質を逃してしまうと、結局祈りができないまま限界にぶつかりアップアップするしかありません。先ほども申し上げましたように、神のみことばを守ろうという思いで宗教的に熱心に頑張るわけです。必ず限界を見るようになります。なぜでしょうか。御座の祝福をいのちの祝福を味わうことがみことばの本質、みことばが許された本当の理由なのに、そこが分かっていないと守ろうという思いは良いのですが、宗教的な自分の力で頑張って限界を見るようになり、結局は否定的な方向に行って倒れることになります。いつも自分のせい、他人のせい、環境のせい。それで不平不満に走ることになり、何かのことあればつまづくようになるしかないのです。なぜでしょうか。御座の力を味わうという本質から離れているので。みことばの本質は信者がいのちあるものなので、それを味わうために許されているものであって、自分の力で守ったのか守ってないのかを比べるために許されているものではありません。じゃあ守らなくてもいいのか。そういう幼稚な話ではなくて癒されて自分のサミットとしての身分を確認して、だから御座が見えて来るようになり、御座を見上げて、御座を求めて、そこから与えられる力によって守れるようになるでしょう。変わるようになるでしょう。でも、それが分かっていないとクリスチャンだから、もう救われたので変えなくちゃ。自分で自分を変えようとして、またつまづくようになります。もちろん変わらないといけません。変わるために癒しのみことばが、サミットのみことばが御座を見上げるように、祈るように、神様がみことばを通して導いていらっしゃるのではないのでしょうか。これが本質なのです。そのために神様はみことばがこのようなものなのでみことばによって癒されて、サミットの祝福に預かり、祈る信者になってもらうために神様は教会を建てたわけです。そして、礼拝を許されました。そういう意味合いを持って教会と礼拝を改めないといけません。

#### 5) 使徒 2:42、エペソ 4:13-15

使徒 2:42 を見ますと、「そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた」。これが教会です。エペソ 4:13-15 を見ますと、「ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです」。そのために教会が許されているのです。「それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです」。このために礼拝が許されて、教会が許されて、牧師が許されて、そこからメッセージが、みことばが語られているということを心に刻んでおいてください。なぜ礼拝が許されているのでしょうか。神のみことばを聞くためです。なぜ神のみことばを聞くのでしょうか。癒されるために。サミットの祝福を確認するために。御座の祝福が私のものだということを確認して、不平不満、つまづかないで思い煩わないで、祈るクリスチャンになるために教会が許されて、礼拝が許されているということを改めて覚えていただきたいと思います。

結論を言いましょうか。ということで、みことばの本質を正しく理解するために、人間の絶望を素直に認めて、何がどうであれキリスト Only となり、イエスはそのキリストですと告白しましょう。これがみことばなのです。これによりいのちが与えられます。そして、I ヨハネ 5:11-13 を見ますと、「そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。私が神の御

子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです」。神のみことばを正しく本質を使いましょう。イエスはキリストなのです。ならばそのキリストによってどんな過去があろうが、今現在どういう現実があろうが、私はいのちを持っているんだと。私は神の子どもなんだ。このみことばに照らしていのちの確信を持っていのちあるものに間違いなければ、使徒1:7-8の前に立ちましょう。皆さんが訴えたいこと、悩み事、意見、さまざまなことがあるでしょうが、それはあなたがたは知らなくてもいいよ。神のみことばはそれらのことを置いといて御座を見上げなさい。聖霊が臨まれると力をいただけます。それで自分の内側に神の国が臨まれることを体験し、その時に初めて現場が見えて来るようになり、自分の仕事にも家庭にもさまざまなことにも神の国のことが現れることを願い、また祈るようになります。証人として立たされることとなります。これがみことばの本質です。どのようなみことばを見ても、わたし以外に他に神を拝んではいけませんと言われて、だから神を拝んで偶像崇拜をしてはいけません。それが本質ではありません。当たり前前に偶像崇拜はしてはいけません。なぜま何でしょうか。キリストのほかに道がないので。あなたがたはキリストによって神と出会い、本当の創造の神様の子どもになり、いのちあるものなので騙されないように。すべてが生かすために、いのちのために、味わうために、神様がみことばを許していらっしゃるといふ本質をしっかりと心に刻み込んで、味わって行くようにしましょう。

それでこれからは礼拝に来られる時に、この礼拝は私が癒されて私がサミットとして立てられるその時なんだ。そのために許されている礼拝なんだと思い、その期待をもって礼拝に臨むようにしましょう。本当でしょうか。そのアーメンが本当のアーメンになることを祝福します。それと神の国は私のものなんだと宣言して、それを味わう祈りをメインにする信者になりましょう。そうでないと、いくら聖書を読んでみことばどおりに正しく守っているつもりなのかもしれませんがみことばとは関係ない信仰者になってしまいます。神のみことばは、私たちを生かしていのちを与えられて、いのちあるから今までのやり方、今までの行き方を捨てて、何を食べるか飲むかではなくて、神の国を求めるために許されるているものです。このみことばの本質を逃してしまうと、人を見るときに自分の先入観によって見てしまうのです。事実かもしれません。あの人はこれダメ、これダメ、こうなんだ、あなんだ、これがすごい。それは自分の意見であって神様はその人を愛していらっしゃいます。神様はその人を生かそうとしていらっしゃるのです。それが神の目で見えるわけです。自分の気にいるものなのか気に食わないものなのか、それは自分の基準であって神のみことばはそうではありません。たとえプーチンでも生かすことは神のみことばなのです。そういう目で見ないといけません。だからあなたの敵でさえさばいたり、ののしったりすることは、私たちの辞書にはありません。彼らのために、彼らがいのちの祝福に預かるように、祝福のお祈りを捧げなさいと言われるわけです。それがみことばなのです。今まで正直に神のみことばを知ったということでこれがいつもものさしになって、何で？何で？と生きてきたのでは  
ないでしょうか。みことばはそういうものではありません。いくら神学的に論理的に立ててお話しをするにしても、それが生かすものであり味わうようにしてくれるようなものでなければみことばからは離れていると判断してだまされることがないようにしましょう。皆さんの内側でみことばの本質が本当に回復できて、イエス様が律法学者に神の国は遠くないよとおっしゃっているその言葉が皆さんに成就することを祈りたいと思います。これから本当にいのちであるみことばとともに喜んで生き生きとしてすべての限界を超えて証人としての道をとともに歩いて行きましょう。

#### (祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。神様は罪人の私たちのためにいのちのみことばを与えたにもかかわらず、みことばの本質を逃すことで重荷を背負って間違っている道を歩んでいるイスラエルのようなことを繰り返すことがないようにひとりひとりを祝福してください。いのちであり、いのちの祝福を味わうことで他の人も生かす、このみことばの本質、イエスはキリストであるこの本質をしっかりと握って、これからは聖書を正しく見て、また礼拝を通して癒され、サミットの祝福を味わうことができる信者としてひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン